

## 順序がある2つの正規母平均の推定—分散共分散行列が既知の場合

目白大学 張 元宗      慶應大学 篠崎 信雄

主旨： 2次元正規分布の分散共分散行列が既知で、母平均に順序制約がある場合の母平均の推定問題を考える。この問題に対して、Hwang, Peddada(1994) または、Peddada, Dunson と Tan(2005) が提案した推定量の妥当性はあまり明らかにされていないため、ここでは、確率優越性の評価の基準の下で、制約条件を満たす最尤推定量が Hwang, Peddada(1994)、または Peddada ら (2005) が提案した推定量より優れていることを明らかにした。また、Pitman nearness の評価基準の下でも同様な結果が得られた。

1. はじめに：  $\mathbf{X} = (X_1, X_2)' \sim N(\boldsymbol{\mu}, \Sigma)$  に従い、分散共分散行列

$$\Sigma = \begin{pmatrix} \sigma_1^2 & \rho\sigma_1\sigma_2 \\ \rho\sigma_1\sigma_2 & \sigma_2^2 \end{pmatrix}, \quad (1.1)$$

は既知で、 $|\rho| \neq 1$ 、 $\boldsymbol{\mu} = (\mu_1, \mu_2)'$  とし、 $\mu_i, i = 1, 2$  に順序制約、 $\mu_1 \leq \mu_2$ 、がある場合  $\mu_i, i = 1, 2$  の推定を考える。 $\rho = 0$  の場合、 $\mu_i$  の最尤推定量は

$$\hat{\mu}_1 = \min \left\{ \bar{X}_1, \frac{\sigma_2^2 \bar{X}_1 + \sigma_1^2 \bar{X}_2}{\sigma_1^2 + \sigma_2^2} \right\}, \quad \hat{\mu}_2 = \max \left\{ \bar{X}_2, \frac{\sigma_2^2 \bar{X}_1 + \sigma_1^2 \bar{X}_2}{\sigma_1^2 + \sigma_2^2} \right\}. \quad (1.2)$$

である。 $\rho \neq 0$  の場合、Hwang, Peddada (1994) は  $\hat{\mu}_i$  を拡張、 $\boldsymbol{\mu}$  の推定量

$$\hat{\mu}_1^{HP} = \min \left\{ \bar{X}_1, \alpha \bar{X}_1 + \beta \bar{X}_2 \right\}, \quad \hat{\mu}_2^{HP} = \max \left\{ \bar{X}_2, \alpha \bar{X}_1 + \beta \bar{X}_2 \right\}. \quad (1.3)$$

を提案、 $\hat{\mu}_i^{HP}$  は確率的に  $\bar{X}_i, i = 1, 2$  より優れていることを証明した。ここで、 $\alpha = \omega_1/(\omega_1 + \omega_2)$ 、 $\beta = \omega_2/(\omega_1 + \omega_2)$ 、 $\omega_1 = \sigma_2^2 - \rho\sigma_1\sigma_2$ 、 $\omega_2 = \sigma_1^2 - \rho\sigma_1\sigma_2$ 、 $|\rho| \neq 1$  であるので、 $\omega_1 + \omega_2 = (\sigma_1 - \sigma_2)^2 + 2(1 - \rho)\sigma_1\sigma_2 > 0$  である。Peddada, Dunson と Tan (2005) は  $\omega_1\omega_2 < 0$  の場合、推定量  $\hat{\mu}_i^{HP}, i = 1, 2$  は一致推定量にならないことに気づき、 $\hat{\mu}_i^{HP}$  を次のように修正し、確率的に  $\bar{X}_i$  より優れることを証明した。

$$\hat{\mu}_1^{PDT} = \min \left\{ \bar{X}_1, \alpha^* \bar{X}_1 + \beta^* \bar{X}_2 \right\}, \quad \hat{\mu}_2^{PDT} = \max \left\{ \bar{X}_2, \alpha^* \bar{X}_1 + \beta^* \bar{X}_2 \right\}, \quad (1.4)$$

ここで、 $\alpha^* = \omega_1^+ / (\omega_1^+ + \omega_2^+)$ 、 $\beta^* = \omega_2^+ / (\omega_1^+ + \omega_2^+)$ 、 $a^+ = \max\{a, 0\}$ 。しかし、提案した両推定量の妥当性はあまり調べていないため、ここでは、制約条件を満たす  $\boldsymbol{\mu}$  の最尤推定量

$$\hat{\mu}_1^{MLE} = \bar{X}_1 - \beta(\bar{X}_1 - \bar{X}_2)^+, \quad \hat{\mu}_2^{MLE} = \bar{X}_2 + \alpha(\bar{X}_1 - \bar{X}_2)^+, \quad (1.5)$$

と両推定量  $\hat{\mu}_i^{HP}, \hat{\mu}_i^{PDT}$  との比較を行い、両推定量より確率的に優れていることを明らかにする。まず、3 推定量の相違を次ぎのように、明らかにする。

$$\begin{aligned} D_1 &= \{\boldsymbol{\omega} \in R^2 | \omega_1 + \omega_2 > 0, \omega_1 \geq 0, \omega_2 \geq 0\}, \\ D_2 &= \{\boldsymbol{\omega} \in R^2 | \omega_1 + \omega_2 > 0, \omega_2 < 0\}, \\ D_3 &= \{\boldsymbol{\omega} \in R^2 | \omega_1 + \omega_2 > 0, \omega_1 < 0\}. \end{aligned}$$

とすると3 推定量は関係はつぎのように整理される。

$$\begin{aligned} \boldsymbol{\omega} \in D_1 : \hat{\mu}_1^{MLE} &= \hat{\mu}_1^{HP} = \hat{\mu}_1^{PDT} = \bar{X}_1 - \beta(\bar{X}_1 - \bar{X}_2)^+, \\ \hat{\mu}_2^{MLE} &= \hat{\mu}_2^{HP} = \hat{\mu}_2^{PDT} = \bar{X}_2 + \alpha(\bar{X}_1 - \bar{X}_2)^+, \\ \boldsymbol{\omega} \in D_2 : \hat{\mu}_1^{MLE} &= \bar{X}_1 - \beta(\bar{X}_1 - \bar{X}_2)^+, \hat{\mu}_1^{HP} = \bar{X}_1 + \beta(\bar{X}_2 - \bar{X}_1)^+, \hat{\mu}_1^{PDT} = \bar{X}_1; \\ \hat{\mu}_2^{MLE} &= \hat{\mu}_2^{HP} = \bar{X}_2 + \alpha(\bar{X}_1 - \bar{X}_2)^+, \hat{\mu}_2^{PDT} = \bar{X}_2 + (\bar{X}_1 - \bar{X}_2)^+, \\ \boldsymbol{\omega} \in D_3 : \hat{\mu}_1^{MLE} &= \hat{\mu}_1^{HP} = \bar{X}_1 - \beta(\bar{X}_1 - \bar{X}_2)^+, \hat{\mu}_1^{PDT} = \bar{X}_1 - (\bar{X}_1 - \bar{X}_2)^+; \\ \hat{\mu}_2^{MLE} &= \bar{X}_2 + \alpha(\bar{X}_1 - \bar{X}_2)^+, \hat{\mu}_2^{HP} = \bar{X}_2 - \alpha(\bar{X}_2 - \bar{X}_1)^+, \hat{\mu}_2^{PDT} = \bar{X}_2. \end{aligned}$$

2. 結果： 定理 1.  $\hat{\mu}_i^{MLE}$  は確率的に  $\hat{\mu}_i^{HP}, i = 1, 2$  より優れている。つまり、すべての  $d > 0$ 、に対して、

$$P_r\{|\hat{\mu}_i^{MLE} - \mu_i| < d\} \geq P_r\{|\hat{\mu}_i^{HP} - \mu_i| < d\}$$

が成立する。

定理 2.  $\hat{\mu}_i^{MLE}$  は確率的に  $\hat{\mu}_i^{PDT}, i = 1, 2$  より優れている。つまり、すべての  $d > 0$ 、に対して、

$$P_r\{|\hat{\mu}_i^{MLE} - \mu_i| < d\} \geq P_r\{|\hat{\mu}_i^{PDT} - \mu_i| < d\}$$

が成立する。

Pitman nearness の評価基準の下でも同様な結果が得られた。